

【事業実績】

学校教育と連携した人材育成活動

(1) ミュージアムパスポートの発行

<成果物>

ミュージアムパスポート(2500部)を御所市内の小学生(4年生以上)、中学生、高校生に配布。
特別展・企画展などと関連したスタンプラリー

(2) 人権学習とワークショップの実施

①<御所市内の中学生対象>水平社博物館見学とレザークラフト体験講座

<参加者数>

2020年 7月30日(木) 御所中学校3年生80名+引率教員10名 ※見学のみ

2021年 1月21日(木) 葛中学校1年生16名+引率教員4名

2月10日(水) 青翔中学校3年生70名+引率教員6名

3月10日(水) 葛上中学校2年生16名+引率教員5名

3月17日(水) 大正中学校1年生31名+引率教員5名 ※見学は3月5日

<実施内容・参加者の反応など>

◇皮革産業に携わる人についての話と革素材を使った小物作り体験

・作業体験の前に、皮と革の違いや、皮革・食肉産業に携わる人々の話についての説明。今も世の中には職業によって差別意識が存在する現実があるが、職人さんたちが誇りを持って仕事に取り組んでいることや、生き物の「いのち」をいただいて生きることの意味について、講師が生活体験を交えて語ってくれた。重くなりがちな話題も、ときにユーモアを交えながら生徒たちにわかりやすく話してくれたことは、生命や人権の大切さについて考えさせるよい機会になった。

・刻印棒で、それぞれが自由にデザインをしながら革のトレーを作成した。初めは関心のなさそうな反応を示す生徒もいたが、グループで一緒に作業をしたり、作品を見せ合うことで表情も変化し、作業にも熱がこもっていった。いのちを「いただき、そして生かす」という意味を実際にものづくりを体験することで感じ取ってもらうことができた。

<生徒・職員の感想より>

・レザークラフト体験はとても楽しかった。先生の話も面白かった。

・革の話や、食肉の仕事をしていてくれる人の話をきかせてもらって、よかった。

・革細工の体験を通して、人権について考える貴重な体験になった。

・博物館見学の前に、開催中の企画展の夜間中学についての話を聞かせてもらい、実際に展示を見てとても勉強になった。

<体験講座中の様子>



②＜御所市内の小学生対象＞水平社博物館見学とミニ桐下駄キーホルダー作り体験講座

＜参加者数＞

2020年11月13日(金) 葛城小学校5年生19名+引率教員2名
11月20日(金) 大正小学校4年生24名+引率教員3名
2021年 1月26日(火) 御所小学校6年生46名+引率教員4名
2月 9日(火) 葛小学校6年生16名+引率教員4名
2月24日(水) 秋津小学校6年生16名+引率教員5名
2月24日(水) 掖上小学校6年生16名+引率教員4名
3月11日(木) 名柄小学校4年生10名+引率教員1名

＜実施内容・参加者の反応など＞

◇御所市柏原の桐材産業についての話と桐材を使ったミニ下駄キーホルダー作り体験講座

・昨年度に続いての実施である。作成手順には複雑な部分があり、初年度は学年によっては時間がかかりすぎたとの反省があった。今年度は各校と連携して、先生方への事前レクチャーの時間を設け、先に生徒と同じものづくり体験をしてもらったことで、サポートが必要な生徒への対応をあらかじめ確認することができ、当日の作業が昨年度よりかなりスムーズに進んだ。

・小さくても本物と同じ材料で作品作りをすると告げることで、自分たちが作る物への関心を高め、作った物を大切に作る意識を持つきっかけ作りができた。また博物館の収蔵庫でも桐が使われていることや、同じ下駄がグッズ売り場にあることなどで、体験後の見学に繋がりを持たせることができた。

・今後も博物館が身近な存在となるように、パスポートの活用を呼び掛けた。

＜生徒たちの感想より＞

- ・自分たちが住んでいる地域の特産品を作るという貴重な体験ができて楽しかった。
- ・下駄のキーホルダー作りを前から楽しみにしていた。実際に作ってみると少し難しかったけど、オリジナルのものができてよかった。
- ・最初はできるのか不安な気持ちだったけど、完成できたときはとてもうれしかった。作った桐下駄は中学校のカバンにかけて持っていきたい。
- ・作った下駄を家族にみせると、ほめてもらった。ポーチにつけて使いたい。
- ・桐の話や、地域の歴史の話を聞いて、御所のよさがよく分かった。
- ・下駄作りのあと、博物館でいろいろな展示を見た。映像もいっぱいあって分かりやすかった。

＜体験講座中の様子＞



＜生徒たちから送られてきた感想＞

